

令和6年度墨田区立学校「体力テスト」の結果について

1 調査の目的

「令和6年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）」の結果から、墨田区内の児童・生徒の体力・運動能力及び生活・運動習慣等の現状を明らかにし、児童・生徒の健康の保持・増進と体力づくりを推進する施策の改善と一層の充実を図る。

2 調査実施期間及び調査対象等

- (1) 調査実施期間 令和6年5月1日から令和6年6月30日まで
- (2) 調査対象 墨田区立小・中学校全学年児童・生徒（夜間学級を除く。）
- (3) 実施した学校

| 校種 | 学校数 | 実施学校数（実施率） | 学年・人数 | | | | |
|-----|-----|---------------|-------|--------|----|--------|------------------|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 小学校 | 25校 | 25校 (100%) | 1年 | 1,721人 | 4年 | 1,698人 | 小学校総数 10,306人 |
| | | | 2年 | 1,758人 | 5年 | 1,677人 | |
| | | | 3年 | 1,777人 | 6年 | 1,675人 | |
| 中学校 | 10校 | 10校 (100%) | 1年 | 1,274人 | / | | 中学校総数 3,913人 |
| | | | 2年 | 1,301人 | | | |
| | | | 3年 | 1,338人 | | | |

3 調査項目

○体力テスト

(1) 小学校

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 中学校

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ、持久走

4 調査結果（体力総合点）

(1) 男子

| | 小1 | 小2 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 墨田区平均値（R6） | 29.3 | 37.3 | 43.7 | 49.6 | 53.2 | 59.8 | 34.8 | 43.3 | 49.5 |
| 東京都平均値（R6） | 28.9 | 36.0 | 42.1 | 47.5 | 52.6 | 58.2 | 33.2 | 40.8 | 47.3 |
| 都平均との差異 | +0.4 | +1.3 | +1.6 | +2.1 | +0.6 | +1.6 | +1.6 | +2.5 | +2.2 |
| 令和6年度全国※ | / | | | | 52.5 | / | | 41.9 | / |
| 墨田区平均値（R5） | 30.0 | 37.6 | 43.8 | 48.3 | 54.6 | 60.5 | 34.5 | 43.1 | 48.8 |

(2) 女子

| | 小1 | 小2 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 墨田区平均値（R6） | 29.9 | 36.9 | 43.6 | 50.0 | 55.9 | 60.5 | 44.1 | 48.7 | 49.5 |
| 東京都平均値（R6） | 28.5 | 35.6 | 42.0 | 48.0 | 53.8 | 58.8 | 42.1 | 46.2 | 48.9 |
| 都平均との差異 | +1.4 | +1.3 | +1.6 | +2.0 | +2.1 | +1.7 | +2.0 | +2.5 | +0.6 |
| 令和6年度全国※ | / | | | | 53.9 | / | | 47.4 | / |
| 墨田区平均値（R5） | 29.6 | 38.0 | 44.0 | 50.5 | 55.9 | 61.5 | 44.5 | 49.2 | 50.5 |

※ 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書【スポーツ庁】（小学校第5学年、中学校第2学年実施）

5 結果の分析

小学校、中学校ともに、全学年において男女とも都の平均値を上回った。調査項目別では、小学校では「反復横跳び」、「20m シャトルラン」、「立ち幅跳び」が都の平均値を2ポイント以上上回った。特に「20m シャトルラン」は令和3年度まで課題であったが、区が独自に作成した、種目別に技能ポイントを分かりやすく解説した動画が周知され、一人1台端末を用いて児童が視聴するなど、授業時間に限らない活用を全校で徹底したことが、近年の記録向上の一因になったと考える。児童・生徒の意欲を継続させる工夫（目標カード、運動ビンゴ等）を講じた体育月間の実施、児童集会等で調査項目を取り入れた運動遊びの提案、児童による技能ポイントを踏まえた実技披露の場の設定など、年間を通じて運動意識の向上・運動機会の増加に取り組んだ結果と考える。

中学校では「長座体前屈」、「反復横跳び」、「立ち幅跳び」が都の平均値を2ポイント以上上回った。全校で授業の導入時に柔軟体操や動的ストレッチ、俊敏性を高める遊びの要素を含むウォーミングアップなどを取り入れたことが成果の一因になったと考える。

一方、小学校では「長座体前屈」、中学校では「持久走」、「20m シャトルラン」で都の平均値を下回る学年が多く、柔軟性や俊敏性、持久力の向上が課題である。今後は、教員、児童・生徒それぞれに対応した種目別の技能ポイント解説動画を作成し、活用の徹底を図るとともに、年間を通じて課題である運動の取組機会の増加を促す。

6 今後の取組予定

- (1) 教育委員会事務局指導室は、本調査の結果を踏まえ、体力向上に資する取組を各学校に周知し、実施の徹底をする。
- (2) 各学校は、自校の調査結果を踏まえ、令和6年度「体力向上プラン」、「一校一取組運動」の改善を図り、体力向上を更に推進する。